

印刷工場がこっそり教える

コストダウンヒント集

はじめに

エネルギー価格の上昇や急速な円安進行により、原材料や物流コストの高騰は落ち着く様子が見られず、さらなる値上げによる影響も心配されています。

それでも企業活動が続けるうえで印刷物による情報発信は欠かせず、そのコストダウンは多くの企業様が抱える課題ではないでしょうか。

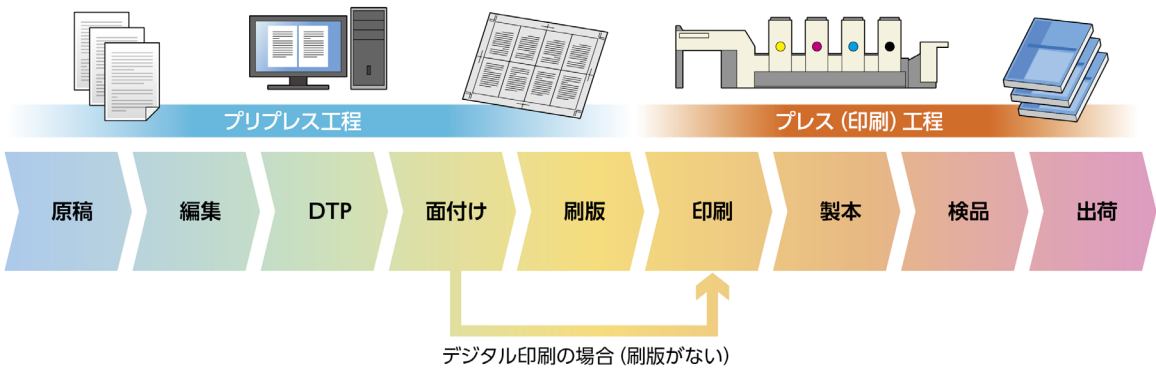
印刷物の見積は多くの工程で発生する料金を積算して作成されており、そこには視点や考え方を少し変えることによってコストが抑えられるヒントがたくさん隠れています。

本資料は、皆さまが印刷物を少しでも安価に制作できるよう、当社ならではの視点でコストダウンにつながるヒント集にまとめてみました。制作会社や印刷会社任せのコストコントロールから抜け出し、ムダなく適切な価格交渉ができることを願っております。

株式会社エデュプレス

印刷物の基本情報

一般的な印刷物の制作ワークフロー



編集：文字や写真などの原稿を取りまとめる。
DTP：文字や写真などを配置してレイアウトデータを作成する。
面付け：レイアウトデータから、複数のページ（4～16ページ）を大きな印刷用紙に割り付けたデータを作成する。
刷版：面付されたデータを印刷の原版となる刷版に出力する。
印刷：刷版を印刷機にセットし紙に印刷する。
製本：印刷された用紙を加工する。「折り」「綴じ」「断裁」などの工程があり、ここで最終的な製品の形になる。

印刷用紙サイズ一覧

(単位：mm)

	A判	菊判
全判	625 × 880	636 × 939
半切	437 × 625	468 × 636
四切	310 × 437	316 × 468
八切	218 × 310	232 × 316

	B判	四六判
全判	765 × 1085	788 × 1091
半切	540 × 765	543 × 788
四切	380 × 540	392 × 543
八切	268 × 380	270 × 392

印刷用紙連量一覧

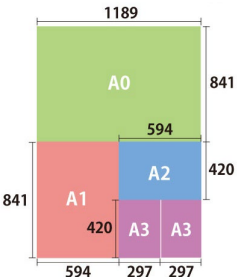
用紙の厚さは、全紙1,000枚（＝1連（R））の重量で表示する。

上質 (単位：kg)			
A判	菊判	B判	四六判
28.5	31	43.5	45
35	38	53	55
44.5	48.5	67.5	70
57.5	62.5	87	90
70.5	76.5		110
86.5	93.5		135

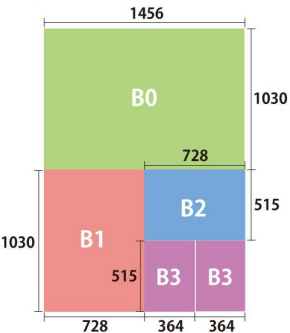
▲ A判、菊判、B判、四六判に記載されている数字は異なるが、横列の数字はすべて同じ厚さ。

仕上がりサイズ (JIS規格) 一覧

A0	841 × 1189
A1	594 × 841
A2	420 × 594
A3	297 × 420
A4	210 × 297
A5	148 × 210



B0	1030 × 1456
B1	728 × 1030
B2	515 × 728
B3	364 × 515
B4	257 × 364
B5	182 × 257



コート

A判	菊判	B判	四六判
40.5	43.5	61	63
43.5	47	65.5	68
46.5	50.5	70.5	73
57.5	62.5	87	90
70.5	76.5	106	110
86.5	93.5	130.5	135

アートポスト

菊判	四六判
111	160
125	180
139	200
153	220
167	240

アート

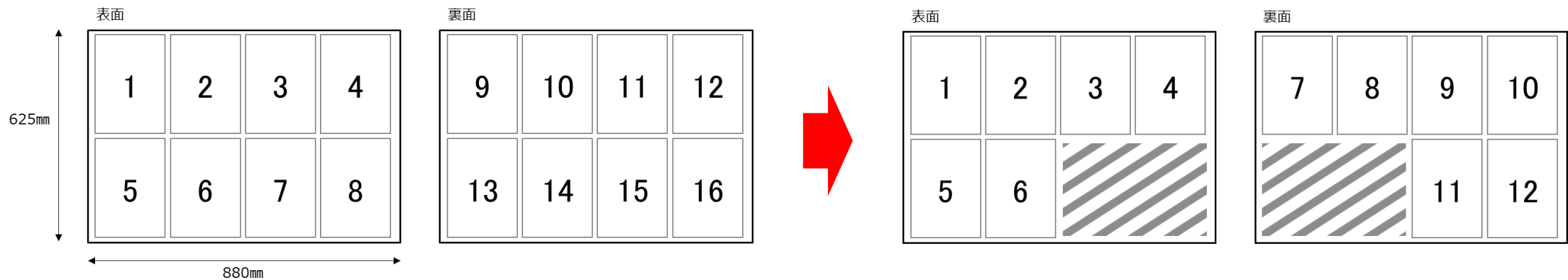
菊判	四六判
62.5	90
76.5	110
93.5	135

入数
500
250
125
100

面損印刷

仕上がりサイズがA4判（210×297mm）の場合、一般的には『A全判』と呼ばれるA4判が8枚入る大きな用紙（625×880mm）で印刷します。つまり、A4判であれば、大きな用紙1枚で表裏合わせて16ページを印刷できます。よって、A4判12ページをA全判で印刷すると、「4ページ分」は何も印刷されない白ページとなり無駄になってしまいます。

そこで、12ページの場合は、8ページと4ページに分けて印刷することが一般的ですが、部数が少ない場合は、そのまま（面を損したまま）印刷したほうがコストダウンになります。



作成する印刷物が **A4判（210mm×297mm）** の場合、一般的には、表面8枚＋裏面8枚が入る大きな用紙で印刷する

斜線箇所（面）を損してでも1枚で印刷する方法を**面損印刷**という

付合せ印刷

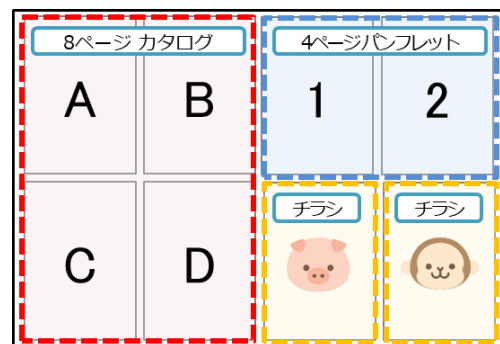
複数の印刷物を同時発注する際、仕上がりサイズが**同じ大きさ**（すべてA4判、すべてB5判など）で、印刷する用紙も**同じ銘柄**（同銘柄の上質紙、同銘柄のコート紙など）且つ**同じ厚さ**、すべてが**同じスケジュール**で進行可能な場合には、複数の印刷物を1枚の用紙に併せて（付合せ面付）印刷することができます。

それぞれの印刷物に掛かる刷版費用が削減されて、トータルコストを抑えられます。

付合せができる組み合わせは、表裏16ページとなる組み合わせから数パターンあります。



8ページカタログとデザイン違いのチラシ4種類を1枚の用紙に印刷することも可能です



8ページカタログ、4ページパンフレット、チラシ2種類を1枚の用紙に印刷することも可能です



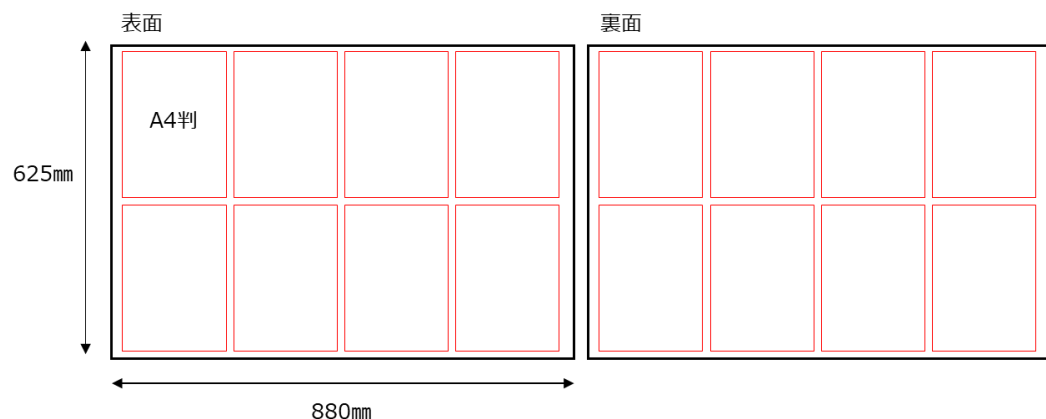
すべてデザインの違う8種類のチラシを1枚の用紙に印刷することも可能です

ページ数を決めるとき

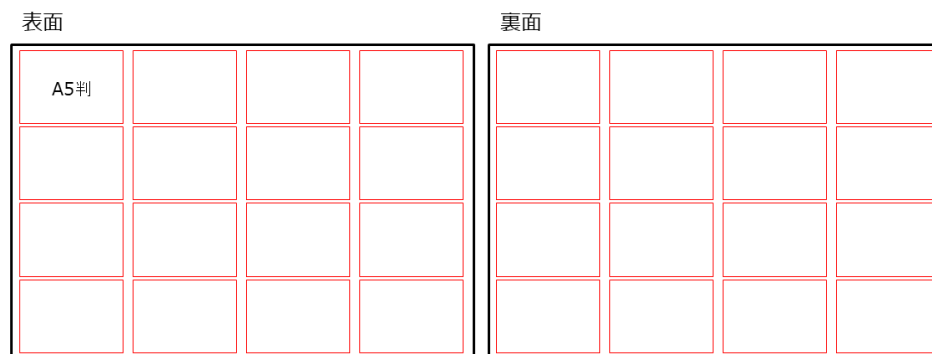
ページ数を検討する際、仕上がりサイズが**A4判なら16の倍数**を基準として考えると良いでしょう。16ページであれば、表面8ページ+裏面8ページとなり、大きな用紙（A全判）1枚で印刷することができます。印刷工程も、刷版・印刷・製本まで1台*で完了するので効率がよく、コストダウンにつながります。仕上がりサイズがB4判（257×364mm）の場合も同様です。

*台（だい）：印刷された1枚の用紙を1ページの大きさに折りたたんだ状態のものを折丁と呼び、この折丁を数える単位を「台」と呼びます。

仕上がりサイズがA5判（148×210mm）、B5判（182×257mm）の場合は、A4判・B4判の半分の大きさとなるため、2倍となる32の倍数を基準にすると良いでしょう。



作成する印刷物が **A4判（210mm×297mm）** の場合、A全判1枚の用紙に印刷できるページ数は**16ページ**。



作成する印刷物が **A5判（148mm×210mm）** の場合、A全判1枚の用紙に印刷できるページ数は**32ページ**。

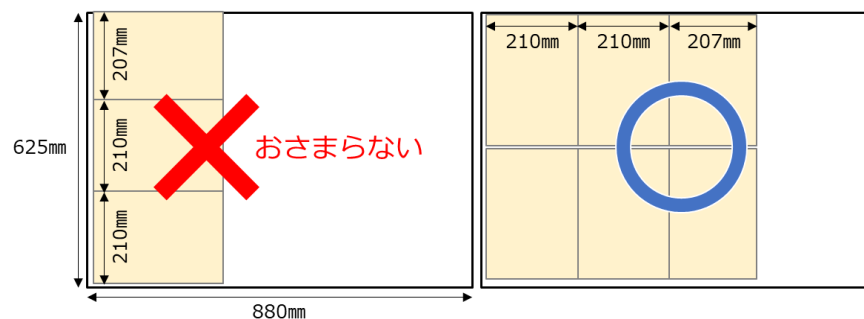
三つ折りパンフレットをつくるとき

仕上がりサイズがA4判の三つ折りパンフレットは、ページをすべて広げた状態の横幅が627mm（210+210+207mm）となるのが一般的です。このサイズを『A全判用紙』で印刷する場合、1枚当たり2部（2面付）しか印刷できません*図1。

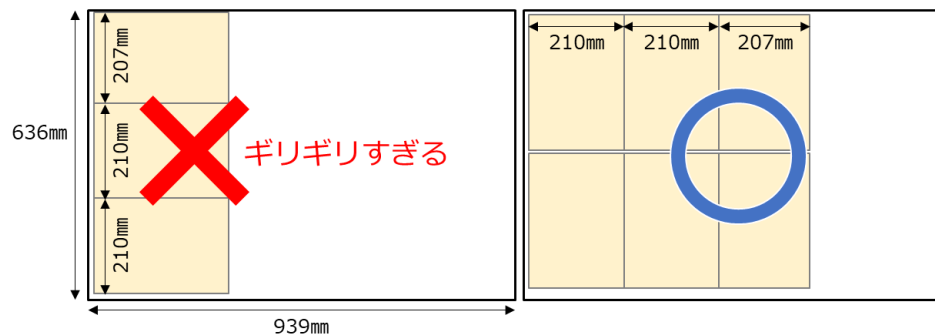
A全判用紙よりも一回り大きい『菊全判用紙（636×939mm）』に印刷しても、印刷機で必要となる余白部分もあり、やはり1枚当たり2部（2面付）しか印刷できません*図2。

そこで、折りこまれるページの横幅をもっと短くして、広げた状態の横幅を620mm（210+210+200mm）にすると、1枚の用紙に3部（3面付）印刷することができます*図3。必要部数に対する印刷枚数が格段に少なくなり、かなりのコストダウンとなります。

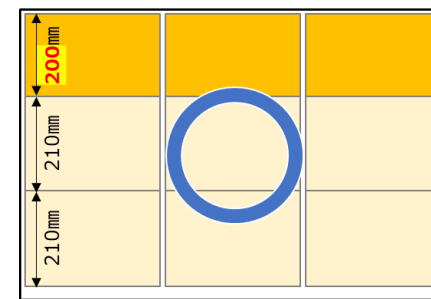
* 図1：一般サイズの三つ折りパンフレットはA全判では2部しか印刷できない



* 図2：印刷用紙が 菊全判であっても、2部しか印刷できない



* 図3：1ページの横幅を短くすると、
菊全判用紙1枚で3部印刷することができる



無駄な印刷物をつくらない。

コストと労力に見合わない結果となった印刷物は、無駄な印刷物と当社は捉えています。

制作したい印刷物の目的、その印刷物で解決したい課題、達成したい目標値。それらの成果につながる印刷物を制作することが究極のコストダウンにつながると考えています。

ヒントをもっと知りたい方は…

もっとたくさんのヒントを知りたい方は、下記の資料請求フォームよりお問い合わせください。

『**印刷工場がこっそり教えるコストダウンヒント集【完全版】**』をお送りいたします。

完全版 INDEX

- | | |
|--------------------|-----------------------|
| 1. 面損印刷 | 11. デジタルとの融合で改版印刷を減らす |
| 2. 付合せ印刷 | 12. 輪転印刷機の予備紙は要注意 |
| 3. ページ数を決めるとき | 13. AB判サイズの印刷物 |
| 4. 印刷部数を決めるとき | 14. 用紙の銘柄にこだわらない |
| 5. 表紙の片面印刷 | 15. 特殊紙の落とし穴 |
| 6. 三つ折りパンフレットをつくる時 | 16. 印刷会社の保有設備を把握する |
| 7. 部数に合わせた印刷機 | 17. 手作業を減らす |
| 8. 特色インクの色を決めるとき | 18. 無駄な梱包をなくす |
| 9. 本文の扉ページ | 19. 軽量化で郵送費削減 |
| 10. 表紙の保護をするとき | 20. 究極のコストダウン |
| 11. 本文デザインを決めるとき | 21. ビジネスセミナーのご案内 |

完全版をいますぐゲット！

資料請求

成果のあがる情報満載！



同業者、印刷製本機メーカー、複合機メーカー関係者へは配布しておりません。
お問合せはご遠慮くださいますようお願いいたします。

ご依頼を検討中の方へ

お見積り・金額については一度お問い合わせください。

無料でお客様のご要望に応じたご提案とお見積りをさせていただきます。

お電話でのお問い合わせ



03-5807-8100

電話受付：平日 9:00～17:30

フォームでのお問い合わせ



<https://www.edupress.co.jp/contact>

<https://edupress.co.jp>

EDUPRESS